

# 研修だより

## No.6

## 本日の研修の流れ (はじめは職員室にお集まりください。)

- ①アンケートについて
- ②研修だより No.5 について (1学期に配布済みです。手元に準備をお願いします。研究部クラスルームにも。)
- ③ブロック研修 (各ブロックごと)
  - 低学年・特別支援ブロック～来週の授業研に向けて指導案検討、プレ研調整や教材準備。
  - 中学年・高学年ブロック～公開研で行う単元や授業イメージの確認。日常実践の交流。

### ☆指導案作成について (8月・公開研)

授業者だけでなく、**学年やブロックでつくり上げる**という意識で進めてください。

**A4、2枚**です。フォントサイズは変更可です。No.5に書いてあるように**矢印でマネジメントを記載**します。

**特支**は、7月の**指導案の型**を基に作成してください。個別目標がありますので、**枚数に指定はありません**。

## 学校アンケートより

- 7月の日程について…  
(2週連続はきつい) 全員公開する方法の1つとして考えましたが、2週連続は確かに厳しかったですね。プレ研もその分多くなり、調整が難しくなりました。反省として残し、来年度ほかにより方法がないか考えます。
- エリア公開について…  
(なぜ?) 公開研1日で全員公開をしても、じっくり検討することができない。という意見が数年続けてあがっていたので、研究部として考え、改善した授業公開のシステムです。

## 子どもたちの声から

すでに授業公開をした担任が研究部員の、3-2、4-1、6-3の児童に、「この前の授業はどうだった？」  
「学ぶ授業はどう？」とたずねてみました。

「やりがいがある!」「楽しい」「自分の考えを確かめられていい!」「ほかの教科でもこういう授業がいい!」  
というような反応もあり、「教えてくれないと自信がもてない」「わかる子と苦手な子のコースを分けてほしい」  
などの声もありました。そのとおり!と思う子どもの言葉、反応です。

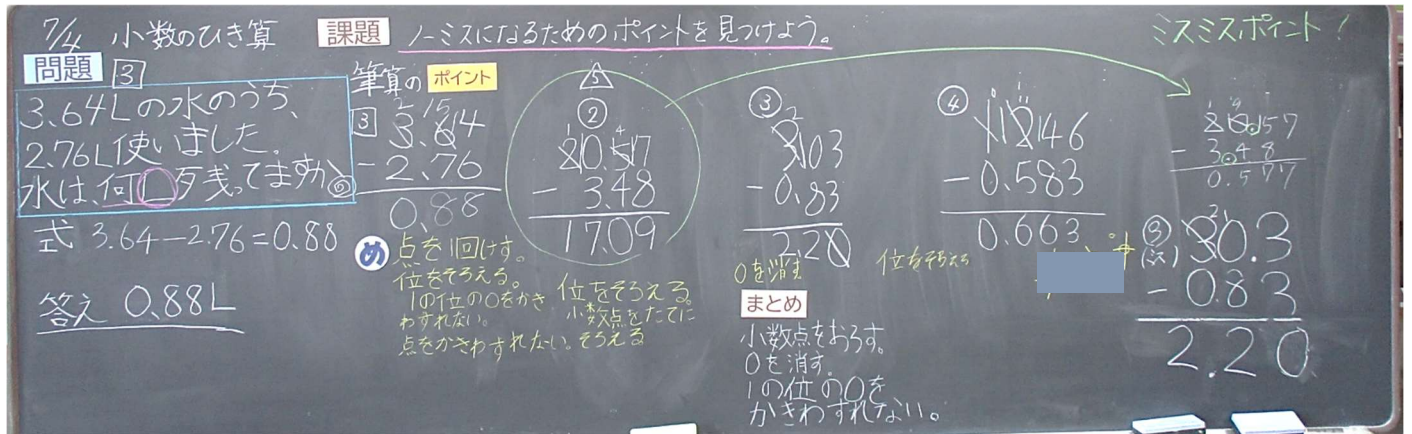
今年度の研修は、今までとは感覚的に異なる授業形態なので、とまどいもあって当然だと思います。反省や改善はこれから行うにしても、実践してみないと検証もできない!まずは子ども教師共に「慣れ」が必要だと思います。そこで、

## 「学ぶ」授業、こんなふうに行ってみました♪

日常実践でいくつか「やってみた」ことを紹介します。気軽に考えましょう♪というだけで、ぜひこうしてください!というわけでもありません。できそうなことから始めてみるきっかけになったらいいなと思います。

慣れさせるためにやっているのが第一目的なので、あまり内容は吟味されていません。すみません。

算数、小数の筆算の学習です。板書は課題以外子どもたち。(でも、板書は教師が書くメリットのほうが大きい。) 私が子どもたちと一緒に課題を立てた以外は、すべて子どもたちが授業を進めました。

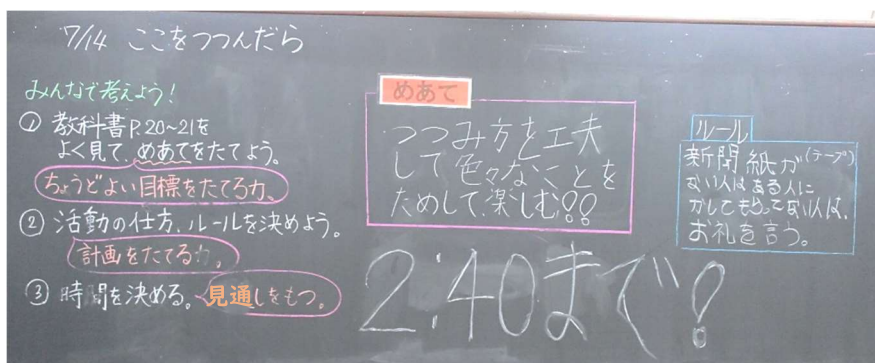


☆ゴールの見える課題：課題を立てたらあとはミスしやすいポイントを子どもたちで出し合い、練習問題に取り組んで再度確認するだけなので、すすいと進めていました。ミスをするを前提に話すので、ミスが恥ずかしいという雰囲気にもならなかったのが良かったと思います。進行2人、板書はその都度2人なども子どもがその場で決めていました。私が授業を進めるより、たくさんの考えが出た気がします。

☆見通しをもつ：課題を立てたあとは、「問題」「ポイント」「まとめ」のいつもの貼りものを貼り、いつも通りこういう流れで考えてみてごらん。と、あとは子どもに任せました。授業の流れが見えると、またはいつもどおりだと、安心して自分たちで解決していたように思います。

☆まとめ、練習問題：まとめは、みんなの考えと教科書を手掛かりににごらん、と言葉を掛けました。練習問題やドリルの丸付けは、担任が行いました。みんなで見つけたノーミスポイントを使って指導できるので、子どもたちも解き直しがスムーズでした。

☆アイテム：学級会をするときに、司会2人、書記2人、議題が変わったらまた交代のシステムが身に付いているので、授業にも転換できたのだと思います。昨年度までの、対話の研究をもとに学習に関係することであれば、ある程度つぶやいてよい雰囲気があるので、シーンとなることはなかったです。また、算数ではいつも同じような板書構成や授業展開なので、安心して授業を進められた気がします。



図工、協働制作の学習です。めあてとルールを子どもたちが考えました。こちらが思っていたルールとは内容は逸れましたが、子どもたちにとっては大事なことだったのかもしれませんが。大人が提示したことよりも、子どもたち自身が考えたことのほうが残るのであれば、指導事項と大きく逸れてなければよいのかなとも思いました。

☆アイテム：主要教科以外でも、子どもたちが学ぶこと、計画を立てて見通しをもつことに慣れさせたいと思ったので、図工でもやってみました。算数の授業のときに、「先生が楽しみたいだけじゃ〜ん」と言う子もいたので、子どもたち自身で学ぶとどんな力が身に付くのかということを書きました。

## 子どもに委ねる授業を、「やってみて」

研究として効果的かということより、まず私が子どもに30分程度委ねてみることに慣れることが先だと思って行った授業2本です。記録に残っていない日もあるので、おそらく10回くらいは、こんな感じで子どもに任せてみています。感じたことは、学級会では、なかなか進行に時間がかかる子たちが、授業だと、「〇分までにここまではやろう」という意識をもつことです。“目標を達成するための期間を設定し実行する”まさに生きる力です。そして、意外と指導要綱から大きくずれることもないな、活発に動くなと感じます。ぜひ、自分のできる方法で、子どもたちに合った方法で、いろいろと「委ねる」「任せる」やってみてください。